

第3回石垣市観光危機管理計画（仮称）素案検討会  
議事要旨

日 時	令和4年1月25日（水）13時30分～16時00分
場 所	石垣市役所1階コミュニティルーム
出席者	<p>大瀨 武 副会長（石垣市総務部防災機管理課 課長）          翁長 由佳 委員（株式会社サンダーバード 代表取締役）          親盛 一功 委員（一般社団法人石垣市観光交流協会 副会長）          赤城 陽子 委員（石垣島ビーチホテルサンシャイン 常務取締役 総支配人）          ※代理出席：豊川 善洋 氏</p> <p>久場島 清俊 委員（東運輸株式会社 常務取締役）          平安名 浩文 委員（有限会社安栄観光 常務取締役）          玉城 力 委員（日本トランスオーシャン航空株式会社 八重山支社長）          宮脇 秀至 委員（全日本空輸株式会社 石垣八重山支店長）          鈴木 信高 委員（一般社団法人石垣市観光交流協会 事務局長代理）          ※西中野正巳事務局長の退職に伴い、新たに鈴木信高事務局長代理が委員に委嘱されました。</p> <p>金城 徹 委員（一般社団法人八重山ビジターズビューロー 専務理事）          照屋 学 委員（石垣島地方気象台 防災管理官）          新城 寛樹 委員（竹富町防災危機管理課 課長）          宇根 正人 委員（石垣市消防本部警防課 課長）          ※代理出席：川邊 宏和 氏</p>
事務局	<p>玻座真、前盛、向井、下地（観光文化課）          高牧、宇治田、金城（ランドブレイン株式会社）</p>
欠席者	<p>小切間 元樹 会長（石垣市企画部 部長）          黒島 一博 委員（八重山観光フェリー株式会社 常務取締役）</p>

<会次第>

1 開会

2 会長あいさつ

3 議事

(1) 関係資料説明

石垣市観光危機管理計画素案

(2) 意見交換

4 その他

(1) 次回開催予定

5 閉会

<配布資料>

- ・ 次第
- ・ 資料 1 : 石垣市観光危機管理計画素案
- ・ 参考資料 1 : 第 2 回石垣市観光危機管理計画素案検討会の成果
- ・ 参考資料 2 : 石垣市観光危機管理計画グループワークの成果

○議事内容

- ・ 石垣市観光危機管理計画(仮称)策定に係り、上記の次第に基づいて第 3 回石垣市観光危機管理計画(仮称)素案検討会を行った。

【以下、発言要旨】

---

事務局	・開会および会長あいさつまで事務局にて実施。
副会長	・それでは、よろしく願いいたします。限られた時間内で、円滑な審議会運営に努めていきますので、みなさまのご協力をお願いいたします。
副会長	はじめに資料の確認を事務局よりお願いします。
事務局	・配布資料の確認を行った。
事務局	・次第に沿って、資料1について説明をした。

---

～10分間の休憩～

～以下、資料説明に対する質疑応答～

---

委員	<ul style="list-style-type: none"><li>・ANAやJTA、八重山観光フェリー、安栄観光では、甚大災害時の緊急輸送に関する覚書を行っている。観光危機管理計画または地域防災計画など、市の計画において、覚書の規定化や位置づけを検討いただきたい。なお、甚大災害時の緊急輸送は、観光客だけでなく地元の高齢者や病気の方々も対象となり得るほか、緊急物資の輸送もあるため、地域防災計画へも反映いただきたいと考えている。</li><li>・計画書素案 33 頁の記載内容をまさしく実施できないかと考えており、情報連絡網の確保や手順を検討している。また、自然災害発生後、滑走路の状態がよければ、管制機能に一部制限があっても昼間の航空機離着陸は可能であると考えている。</li><li>・観光危機管理のプラットフォームは非常に良いと思う。しかし、石垣市だけでなく竹富町と合同のプラットフォームの位置づけにした方が良いのではないかと思う。それぞれの自治体の間で活動している観光交流協会やYVBが苦勞されるかと思うが、意見として提案する。</li></ul>
副会長	<ul style="list-style-type: none"><li>・輸送に関連して、道路啓開計画があり、災害発生後は、空港や港湾など、主要なポイントをつなぐ道路を先行的に復旧していくこととなる。</li><li>・竹富町との連携について、災害発生時、竹富町災害対策本部が石垣市役所に設置され、各種対応を行うこととなっている。竹富町では観光客を帰宅させる上でも、傷病者等を対応する上でも本市と連携する必要があり、観光危機管理の面においても同様の対応が図られるものとなる。現在の計画書素案の記載で内容は網羅されていると考える。</li></ul>
委員	・観光危機管理のプラットフォームは、実際的には竹富町も一緒にやる認識でよいのか。
事務局	・今回のプラットフォームでは、石垣市、観光交流協会、YVB、石垣市内の観光事業者などが集まる。竹富町が入るのは、石垣市としてはやぶさかではないが、竹富町にも観光協会や様々な事業者がいらっしゃる。本会のように、一同に会することは難しいかもしれないが、連携を図っていくというのは必要だと考えている。
委員	<ul style="list-style-type: none"><li>・一緒に災害対策本部を構築するのは難しいと思う。しかし、現行通り、隣り合わせの災害対策本部設置は引き続き行っていきたい。</li><li>・町の石垣庁舎は5階建てで整備を進めているが、立地上、災害発生後にまず安全を確認しないと戻れない。厳しければ石垣市役所に災害対策本部を設置させていただくよ</li></ul>

---

---

うに整理が必要かと思う。現行の計画に、役場庁舎の安全確認、状況が芳しくなければ石垣市役所庁舎での災害対策本部設置など追加で検討する。

- ・35頁の船舶に関して、帰宅支援段階は安栄観光や八重山観光フェリーとの連携が必須だが、まさしく竹富町が担う部分だと思う。次年度、竹富町観光危機管理計画も策定する予定のため、その中で整理したうえで、石垣市と連携していきたいと考えている。
- ・台風時、町内の各宿泊事業者は宿泊者に対して予め石垣市に渡るかどうかを確認されているという。町内の状況把握等については、所管の世界自然遺産推進室との確認を図っていく。

---

事務局

- ・委員に確認だが、地域防災計画の一翼を担う、救難機の協定を結んでおり、対処するのは観光客だけではなく、物資も運んでくるなどの大きな役割もある。今回の計画は観光客に焦点を当てていることになっている。市としてはこう考えているが、ANA や JTA ではもっと大きな枠組みで協定を結んでいるため、その部分だけの特別扱いはできないという趣旨のお願いだったのか。

---

委員

- ・甚大災害時の緊急輸送に関する覚書は、観光危機管理計画が策定されることを前提には考えていなかった。元々、地域防災計画の中に反映いただいて、マニュアルや手順、訓練の位置づけを決めていただくことを想定していた。今回、初めて観光という切り口が出てきており、そちらを特別に取り扱うという趣旨ではない。しかし、現状はあくまでも覚書であるため、地域防災計画や観光危機管理計画など、何かしらの計画内に組み込んでいただきたい。
- ・帰宅困難者は観光客が多いと思う。「石垣市・八重山圏域観光客枠」をつくられるなかでは、石垣市のプラットフォームの枠、竹富町のプラットフォームの枠を設けると、救援機の機数が十分に用意できない場合も十分に考えられるため、竹富町との連携が図られることが望ましい。

---

副会長

- ・次年度、地域防災計画の改定を予定しており、そのなかで明確に記載したいと思う。
- ・1万人近くの観光客が滞在していることがデータでうかがえた。その人数が1日帰宅遅れると、食糧や水など多くの物資が消費される。一般の市民も多くいるため、維持管理するのが大変となる。他地域から救援してもら場合でも、陸続きの環境ではないため、自力で凌がなくてはならない時間がある。なるべく観光産業を迅速に帰宅させるということが重要であるため、地域防災計画でも十分に記載したいと思う。

---

委員

- ・沖縄県観光危機管理計画をつくるにあたっては、地域防災計画などの上位計画をもとに策定している。上位計画を上立てて、そこで拾いきれない観光客を観光危機管理計画で対応することとしているが、現資料ではその位置づけが分りづらいつらと感じた。もう少し明確に示した方が良いと思う。
  - ・県の改定案もしつこいぐらいにその位置づけを記載しており、県の災害対策本部があつて、その下に観光対策本部や協議会が立ち上がることになっている。次年度、地域防災計画も整理されるなかで、観光危機管理計画に重きを置いて、役割のランクが上がるのであれば、それはそれで良いかたちだと思う。
  - ・行動のトリガーについて、細かな記載があるのは非常にわかりやすい。その中で、空
-

	<p>港や港の閉鎖が離島においては重要な事態になると思われるため、25 頁における空港だけの役割だけでなく、災害対策本部などにおいても空港の状況把握について書き込まれた方が良いかと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新たな財源の確保について、次の見直しまでには「観光危機管理基金」などを構築していくなど、具体的な取り組みがみえると良い。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>沖縄県ではそのような基金はあるか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光目的税を観光危機管理基金として充てる予定だったが、コロナ禍でそれが止まった。今年度の改訂においても、基金を具体的な取り組みとして落とし込んでいく予定。</li> <li>県の基金だけでなく、各自治体が同様な財源を持つとより大きな動きがとれると思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域防災計画との位置づけについて、観光危機管理計画は観光危機ということで観光に特化したリスクを想定しており、必ずしも災害対策本部を必要としないものも出てくると考えている。災害対策本部が立ち上がらない状態においても、観光危機管理対策本部が立ち上げられる位置づけであれば良い。</li> </ul>
副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光危機は大規模災害時だけでなく、様々な観光リスクがある。災害対策本部が立ち上がらなくても機能しなくてはいけない事案もある。</li> <li>地域防災計画の視点からいうと、災害時に観光客が避難できているのかどうか、安否確認が重要なものとなる。その情報把握を担えることは非常に良いと考えている。そして、その後に帰宅困難者をどう帰宅支援していくかが大きな役割となるため、帰宅に向けた事務手続きや振り分けをやってもらうということで良いと考えている。しかし、災害対策本部を通さないといけない事案もあるため、その際にはしっかりと議論する。今のこのあり方で良いかと思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光危機管理計画の上位には観光基本計画があり、さらにその上位には総合計画がある。同様に、地域防災計画の上位にも総合計画がある。観光危機管理計画は、甚大災害や自然災害時には地域防災計画に従って、一翼を担うことになるが、必ずしもそれに依らない場合は、観光基本計画に基づいて発動される。ただし、その発動を命令できるのは市長であることを留意しておく必要がある。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>今の内容も踏まえ、計画の位置づけは明確に記した方が良いと思った。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>12 頁以降に示された観光危機の具体的な例など、はじめて拝見した。様々な事象に対して対策本部を立ち上げ、観光で来られたお客さまに対応していくことで理解したが、改めて観光客目線で立ち上げることでよいか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>その通り。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>26 頁、観光危機管理本部での情報収集について記載あり、関係機関からの報告をもとに情報収集する旨記されているが、観光事業者やバス会社の欄をみると本部へ報告することが記されていない。そちらにも記載していないと報告が漏れてしまう。31 頁の上部に、「自社の情報を観光危機管理本部へ伝達する」ことを明記されたい。</li> <li>計画の別紙に「事業者別マニュアルひな型」が準備されるようなので、報告用紙のひな型も準備して、どういった情報を伝達すべきのかなど、具体的にされた方が良い。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業者別マニュアルについて、市役所への情報報告など、予め定められた書式ならば</li> </ul>

	<p>にタイミングで取り組めるように明記することが良いのか、各事業者からも意見をうかがいたい。</p>
副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害対策本部にとっては観光客に関する詳細な情報が集まるのは非常に助かる。先のように、情報が報告される体制で整理されると有難い。</li> </ul>
副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所について健康福祉センターの記載があるが、健康福祉センターは台風時のみの避難所となる。津波警報や大津波警報が出た場合は、全島に24か所の避難所があり、まずはそちらに避難いただく。その後、観光客の皆さんは市の総合体育館に集まってもらう。防災備蓄として大量の食糧等を中央運動公園に整備しているため、周辺に留まってもらう予定である。空港への移動もそちらからの移送が容易であるほか、陸上競技場に自衛隊ヘリも離着陸できるように訓練しており、総合体育館に避難していただくことにしている。しかし、要支援者や高齢者などは健康福祉センターに移動することとなる。なお、地元の方もいるため、人数を見ながらの対応になる。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・副会長に確認したいのだが、宿泊事業者については、宿泊者の避難場所にもなり得るが、その際に備蓄食料等の支援などでコスト面の負担はどのように対応されているのか。</li> </ul>
副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・備蓄食料の提供は必ずしも避難所にいる方のみではない。自宅に避難している市民もいれば、物流が止まり、食糧供給が途絶えることも十分に考えられるため、そういった方々にも提供することになる。宿泊施設で受け入れられた際、備蓄食料がない場合には、災害対策本部からも提供することになる。</li> </ul>
副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・帰宅困難者の避難の優先度について、明確に記載した方が良い。社会常識的に優先すべき方をAグループ、団体旅行客をBグループなどのように、属性ごとに優先順位付けを行い、それに基づいたくじ決めが良いと思う。事務局には具体的な記載を検討願う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・承知した。しかし、属性は様々あり、それに基づいた優先順位も多岐にわたるため、今日この場での決定は難しい。事務局の持ち帰りとしたい。次回、報告する。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練は是非実施いただきたい。</li> <li>・夏場のピーク時は、離島ターミナルを中心にユージュレナモールまでの滞留客など、かなりの人数がいる。多くの方が滞留している際に警報等が出たら、どのように対応が図られるのかなど、訓練を実施してもらいたい。</li> </ul>
副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・離島ターミナルはピーク時に約2,000名もの滞留客がいる。毎年、避難訓練を実施しており、外国人を交えて多言語で誘導する等も訓練している。</li> <li>・クルーズ船については、約2,000人規模の観光客が来た際の対応に非常に苦慮している。</li> <li>・レンタカーについて、大里公民館に防災備蓄倉庫を整備しており、バスやレンタカーなどの避難所を定めている。その他にも島内にいくつか備蓄倉庫を整備しており、レンタカー等が避難してきたときに対応できるようにしている。</li> <li>・毎年の避難訓練で、あわせて訓練できると良いと考えている。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでは観光危機管理計画がなかった。防災危機管理課が主導にこれまでも動いていたが、局地的だったかと思う。また、観光事業者の関わりも含めて、これからは検</li> </ul>

	<p>討していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• また、クルーズ船が来て、市街地に様々滞留しているときにどう逃げていくかの発信も、観光交流協会やYVBとの連携も必要になってくると考えている。対応を図っていく。</li> <li>• 訓練について、図上訓練になるが今年度中にも1度行う予定である。</li> <li>• 日頃からの情報共有、訓練などを行っていくことが観光危機管理における鍵だと思うので、今後も検討していく。</li> </ul>
副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 21頁の防犯関係の対策に関連して、現在ユグレナモール内に市が設置しているような防災カメラの増設も計画内に記載して検討いただきたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 将来的な話になると思うが、市街地にはいろんな人口が集中しているため、市役所跡地の整備においては防災の視点や避難所などの発想も踏まえた検討を行っていただきたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 市役所の跡地利用は防災機能も入っていたと認識しているが、改めて確認しておく。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• トンガからの津波が発生した際、船会社では気象庁の情報もみながら翌日の運航について検討していた。船会社のマニュアルでは、注意報段階であれば様子を見ながら運行することになる。</li> <li>• 航行中の船舶は、名蔵湾沖に避難することになっている。停泊中の船舶は乗客をおろして、船を沖に避難することで対応している。</li> <li>• コロナ禍の収束後、離島ターミナルでの今の訓練内容では、いざ災害が発生した際、実際の対応は難しいと感じている。言葉や体が不自由な方もいらっしゃる。今後においては、どこに逃げたらいいかをまず判断していただくために、避難経路をつくっておくことが大事だと思う。避難経路を伝えて避難所へ率先して逃げていくようにすることが優先ではないかと思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>• まさしく20頁以降「平常時の減災対策」という項目に当てはまると思う。多言語やピクトグラムなどの対応を図っていくことが必要と感じた。</li> <li>• 観光まちづくりの範疇にもなってくると思う。普段の生活の中から、いざというときに経路が分かる仕組みなど、意識して取り組んでいく必要がある。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 37頁以降、台風の段階について記載されているが、具体的な文言については専門用語等もあるため、きちんと整理したい。後ほど事務局と相談する。</li> </ul>
副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 25頁に避難勧告というのがあるが、避難勧告は既に廃止されたため、「避難指示」という言葉に修正願う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 以上で第3回石垣市観光危機管理計画（仮称）素案検討会を終了する。</li> <li>• 第4回素案検討会は、3/3に開催予定。</li> <li>• 今後とも策定に向けて調整させていただきたい。よろしくお願ひします。</li> </ul>

【実施風景】



以上